

# 第5学年 国語科学習指導案

指導者 傳田 正晴

## 1 単元名

表現のおもしろさを考えよう 教材名 「注文の多い料理店」

## 2 目標

- 表現の工夫や登場人物の心情の変化に注意して読み取ろうとする。 (関心・意欲・態度)
- 学習方法を選び、最も強く心に残ったことを紹介しあうことができる。(話すこと・聞くことの能力)
- 登場人物や場面の様子を想像しながら読むことができる。 (読む能力)
- 作者の思いを推測してまとめ、それについての自分の考えを書くことができる。 (書く能力)
- 読む人におもしろいと思わせる表現の工夫に気がつくことができる。

(言語についての知識・理解・技能)

## 3 単元について

### (1) 教材について

山深いところにある「注文の多い料理店」を舞台にして、都会から来た狩人の二人はごちそうを期待し、山猫たちは獲物をひきつけようとする。それぞれの思惑の行き違いがユーモラスに書かれている作品である。また、自然や生物に対して傲慢ともいえる態度の二人の紳士が、最後に山猫（自然）から痛いしっぺ返しを受け、顔に刻印をおされたことから、警告的な作者のメッセージを読み取ることができる。物語として楽しく読みながらも、作者の思いを推測することができる作品であるので、「登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと」を学習の中心とする高学年の文学的な文章の教材として、適しているといえる。

(2) 児童の実態 (男子15人、女子11人、計26人) 平成20年1月8日 実施

アンケート	1 物語文の学習について、あなたはどのように思っていますか。(複数回答)	<ul style="list-style-type: none"><li>物語文は読んでいて楽しい。(18人)</li><li>登場人物がどのような人が想像して読んでいくのが楽しい。(9人)</li><li>物語を読むことが大好き。(5人)</li><li>いっぱい知ることができます。(1人)</li><li>長いから読むのが大変。(7人)</li><li>長い物語は読む気がなくなってしまう。(2人)</li></ul>
	2 学習方法を自分で選択することについてはどう思いますか。(複数回答)	<ul style="list-style-type: none"><li>おもしろそう。やってみたい。(23人)</li><li>自分が興味をもっている事を学習できるし、選べるので嬉しい。(13人)</li><li>グループ学習は、とても楽しい。(9人)</li><li>みんなで一つのことをやる方が良い。(3人)</li></ul>
	3 宮沢賢治が書いた作品を今までに読んだことがありますか。また、読んだことがあると答えた人は何という作品を読みましたか。	ある(7人) ない(19人) ※オツベルと象・・・4人 銀河鉄道の夜・・・3人
チェックリスト	4 文章をつかえずに読むことができる。	読める(13人) だいたい読める(8人) つかえてしまう(5人)
	5 表現のおもしろさを味わいながら文章を読みすすめ、文章のおもしろさを感じることができます。	できる(11人) だいたいできる(10人) できない(5人) (行動観察・単元テスト・ノートより)
	6 音読や黙読などをした後に、登場人物の様子や情景描写、作者の考えについてなど、どのように自分が考えたのかを話し合ったり、発表したりすることができます。	できる(8人) だいたいできる(15人) できない(3人) (授業中の様子・発表・行動観察)

アンケートによると、物語文の学習については、多くの児童が「物語文は読んでいて楽しい」「登場人物が、どのような人か想像して読んでいくのが楽しい」と答えている。しかし、その一方で「長いから読むのが大変」と感じている児童もいる。

また、学習方法を自分で選択するという事に関しては、「おもしろそう。やってみたい」という児童がほとんどであった。自分の興味・関心に合わせて楽しく学習できるようにさせたい。

チェックテストでは、児童の読む力（読み解力も含む）を確認した。実際に児童の音読の様子を見ていると、つかえずにしっかり読める児童とそうでない児童の差が大きい。読めない児童を読めることができるようにするのはもちろんであるが、しっかり読める児童に対してもただ読むというのではなく、物語の内容を味わいながら読み進めていくように指導したい。

読み取り（読み解力）の部分では、文学的な文章でつけたい読み解力として、「登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読む力」を目標としたい。高学年では、登場する人物像について、心情や性格、考え方などをより多面的にとらえることができる時期である。だから、児童には人物の心情を表現や叙述と関係づけて自分の読みとして確かなものに高めていくようになってほしいと願っている。この題材を通して、優れた叙述を味わいながら読む力を育てたい。

### (3) 指導にあたって

読むときの視点を変えて、作品全体を何度も読んで作品を味わわせたい。その中で、山猫と狩人の思惑のくい違いのおもしろさを、扉の言葉の記述をもとに確かめたり、サンドイッチ形式（山の中→山猫軒→山の中）になっている作品構成の巧みさに気づいたりできるようにしたい。

また、宮沢賢治のその他の作品に多くふれるためにも、読書活動を充分に取り入れるようにしたい。

## 4 学習計画（10時間扱い 本時 ①／10）

時	学習内容	読む力・書く力・話す力・聞く力を活用して	評価規準
①	・教材文を通読して初発の感想を交流し、学習の見通しをもつ。	・本文を読み、題名から想像できることを自由に発表させることによって、なぜこのような題名なのかを理解することができます。また、登場人物や場面の様子を想像しながら読むことができる。(読む力・話す力)	○題名に興味をもち、これから学習を積極的にすすめようとしている。(発言・行動観察)
2・3	・戸に書かれている言葉や二人の紳士の心情について読み取る。	・戸に書かれている言葉の本当の意味と、二人の紳士の言動のずれを対比しながら考えてみるように促す。(読む力)	○戸に書かれている言葉を自分達の都合のいいように解釈している二人の紳士の心情を読み取ることができる。(発言・ワークシート)
4	・二人の紳士の心情の変化を読み取る。	・二人の紳士の人柄や性格を見直し、言葉や態度に変化が見られるかどうかを考えるように助言する。(読む力)	○二人の紳士の変化した所としなかった所を読み取っている。(発言)
5	・表現の工夫をとらえる。	・読んでおもしろかったところを振り返り、その場面を読み直して見るよう助言する。(読む力)	○おもしろいと感じた表現をとらえることができる。(発言・ノート)

6・7・8	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習方法を決定する。</li> <li><b>【本のカバー作りを選んだ児童】</b></li> <li>最も強く心に残ったことを中心に感想をまとめる。</li> <li>本のカバーを作り、発表の練習をする。</li> <li><b>【解説ノート作りを選んだ児童】</b></li> <li>解説ノートに書く内容を決め、分担に沿って下書きを書く。</li> <li>解説ノートを完成させ、発表の練習をする。</li> <li><b>【朗読発表会を選んだ児童】</b></li> <li>朗読する場面を選び、最も強く心に残ったことをまとめる。</li> <li>選んだ場面の様子や登場人物の心情を考えて、朗読発表会の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず書きたい事柄を箇条書きにし、スペースに合わせて取捨選択した後、下書きを書いて見直すよう助言する。 (書く力)</li> <li>分担が決まったら、自分は何を中心に書くのかをつかませ、そのために必要な事柄を箇条書きにメモを書き出せる。それをもとに書く内容を決め、下書きをするように助言する。(書く力)</li> <li>場面の様子や人物の心情について、読み取った内容を個別に問い合わせ、まず、読みを確かなものにさせる。そのうえで、もし自分が登場人物の立場だったらどんな気持ちをもつかを考えさせ、それを手がかりに工夫して朗読するように助言する。(読む力)</li> </ul>	<p>物語を読んだ感想を自分の言葉で書くことができる。(ノート・本のカバー)</p> <p>自分が分担になった解説の内容を読み手に伝わるように書くことができる。(ノート・解説ノート)</p> <p>場面の様子や人物の心情が表れるように朗読することができる。(ノート・朗読)</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会を開いて感想を伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話すときや聞くときの観点を記したカードを用意し、それを意識しながら話したり聞いたりさせる。(話す力・聞く力)</li> </ul>	<p>自分の考えや思いが分かりやすく伝わるように話したり、友達の発表の良いところをとらえながら聞いたりしている。(発表・行動観察)</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>命を題材にした物語を読み広げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師自身が心ひかれた物語を紹介したり、児童が日常興味をもっていることに近い内容の物語を紹介したりする。(話す力・聞く力)</li> </ul>	<p>命を題材にした本の読み広げに興味をもとうとしている。(発言・行動観察)</p>

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

全文を読んで、「注文の多い料理店」について、積極的に読みを深めようとすることができる。

### (2) 本時の主張点

どのような登場人物が出てくるのかをまとめ、「注文の多い料理店」の大まかな内容を理解させたい。また、注文が多い料理店とは、どういう意味の店なのか読みを深め、「おもしろい」「不思議」など感じたことを中心に初発の感想が書けるようにさせたい。

### (3) 準備・資料

ワークシート、扉の絵、振り返りシート、小黒板

(4) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・支援 ※評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>全文を通読し、「注文の多い」という言葉の意味を考えて初発の感想を書いてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品全体のキーワードにもなる題名を考えることで、児童に「注文の多い」とはどういうことかという意識をもたせ、扉の言葉にこだわる姿勢を最初にもたせたい。</li> </ul>
<p>2 「注文の多い」料理店と聞いて、どのような店を想像するのかを考え、自分の考えをワークシートに書き、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人気のある店</li> <li>メニューが多い店</li> <li>人がいっぱい並んでいる店</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>題名から想像できることを自由に発表し合い、それぞれの考えを認めることで、物語への興味を抱かせるようにする。</li> <li>題名から、自分の思いを広げる。思い浮かんだ言葉や、想像した店について、自由に書かせる。</li> </ul>
<p>3 本文を5分間集中して黙読させる。その後、5分間音読させ物語のあらすじを大まかにとらえる。</p> <p>(1) 登場人物について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二人の若い紳士</li> <li>専門のりょう師</li> <li>山猫軒の主人</li> </ul> <p>(2) 出来事について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山奥で道に迷う二人の紳士</li> <li>「山猫軒」を見つけて喜ぶ二人</li> <li>料理店から逃げだそうとする場面</li> <li>助かった場面</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語が長いのでこの単元に入る前の予習として、家で一度通読してくるようにさせる。</li> <li>音読後、どんな登場人物がいたか、どんな出来事があったかなどを発表させ、全員が大まかなあらすじを押さえられるようにする。</li> <li>単元の学習中は、家庭学習などで、何度も読ませるようにさせたい。</li> <li>物語のあらすじについては、本時はポイントだけを押さえ、だらだらとした読み取りにならないように留意したい。長い文章なので、簡単に内容を押さえさせたい。</li> </ul>
<p>4 注文の多い料理店に絞って、ワークシートに基本的な事柄をまとめる。</p> <p>(1) 店の名前について</p> <p>(2) 店構えについて</p> <p>(3) 注文が多いという言葉について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文内の四角で囲んである札が、お店の看板のような役目をしていることに気づかせる。</li> </ul> <p>※注文が多い料理店とは、どういう意味の店なのかを考えることができる。(観察、ワークシート)</p>
<p>5 初めて読んだ感想を書く。(初発の感想)その後、自分が書いた感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>扉の言葉が不思議だった。</li> <li>山猫軒がおかしいことに気づいた時の二人の慌てた様子がおもしろかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おもしろい」「不思議」「すごい」などと思ったことを中心に発表する。なお、内容についてだけではなく、表現についても感想が出るよう、場合によっては教師からの問いかけも行いたい。</li> </ul>
<p>6 学習の振り返りをする。また、次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を振り返り、振り返りシートによって自己評価をする。また、次時の学習への見通しをもつ。</li> </ul>